

## 資料

### 史料紹介

# 十五年戦争末期における大阪憲兵隊築港憲兵分隊長日誌（下）

北 博昭

#### 一 解説

1. はじめに
2. 重松博治の略歴
3. 収録史料について

#### 二 史料（以上、32号）

十月二十三日〔？〕

艇ノ終結場所

大正区船町一番地 暁第六一四〇部隊  
石川部隊 長井大尉  
一日平均約十六隻 八一一隻（七月末  
日〔より？〕十月二十三日現在）  
〔大阪陸軍〕造兵廠 前田造船 堺、大原  
造船三宝工場 堺、木南車両三宝工場 川  
崎車輛本工場 川崎車輛明石工場 淡路、  
東淡造船所 天六、三越造船所

〔日付不詳。十月十二日の憲兵司令部本部長来  
阪関連の報告記事か〕

築港憲兵分隊ハ将校以下六〇名ニシテ別ニ  
補助憲兵四五名ノ配属ヲ受ケ、大阪港ニ面  
シタ港、西、大正、此花、福島ノ五区ヲ管  
轄シ、主トシテ港湾ノ防衛ヲ主任務ト致シ  
テ居リマス

現在、大阪港ノ性格

- 1、最も重要ナル補給基地  
之ニ対スル障碍排除 保安

- 2、南方共栄圏ノ戦力物資ヲ運フ台所  
憲兵カ大東亜戦争勝抜ノ為、寄与  
スル唯一ノ途

港湾防諜ノ重点

敵性謀略ノ警防

（船舶 重要軍需品 火薬 燃料）

軍事輸送ノ企図秘匿

（船舶運行 兵員 資材）

重要軍需資源ノ警戒

（兵器 糧秣 被服 燃料）

ノ三点ヲ指向

憲兵ノ服務要領

（関係諸機関ト密接ニ連携シ）

派遣憲兵 四カ所三四名

（憲〔兵〕一三 補〔助憲兵〕二一）

海上係 巡察 査察

港湾地帯警戒目標

外人 防諜容疑者 鮮人 公館員

外部取締（穩密）

軍隊 軍衙 官庁 防諜ノ参考提報

大泉防諜ノ指導（大阪港防諜委員会

大阪港湾各庁防諜協議会）

幸ヒ今日迄

火災予防ノ指導ノ徹底

船員ノ思想動向観察

機帆船徴用協力

(一〇六隻 一二二三〇噸) 自六月  
十日 至七月 十四日

( 三九隻 四八九七噸) 自九月  
十二日 至九月二十九日

船員掩護 (映画優待券 理髮券 市電  
乗車券 □)

#### □湾防

主ナル取扱事項

軍用重油窃盗団ノ検挙

軍用アルコール窃盗事件

軍用生ゴム窃盗事件

船員ノ塩酸キニーネ等国外搬出事件  
検挙

荷役 倉庫業者

各機関ノ実施ノ現況

労務者ノ獲得 非常時対策

防諜ノ実欠陥 地方庁 中央部 要  
求スヘキ点

半島人

常用荷役人夫数

十一月七日

懇談会 於 [大阪陸軍] 偕行社

一、軍需品分散 分散計画 空倉庫 臨  
港倉庫ハ輸統 [軍需輸送統制部] 管轄

二、軍防空

三、船舶部隊防衛

四、陸海軍協定事項

五、其他

臨港倉庫ヲ軍需輸送統制部ニ於テ統轄  
危険品ノ揚搭 成ル可ク取扱ハヌ如クス  
宇野 航空モ之ニ準ス

阪神ニ必要ナルモノハ神戸 山腹ヲ利  
用出来ル

○ [大阪陸軍] 兵器補給廠 宇治 洞窟  
千余 川道路 弾薬 淀川堤防 枚方

西方二千米 岩屋 運通省 [運輸通信  
省] 第三連絡所 堺ノ八段庄ノ松原  
星田駅 四條畷北方三万坪 弾薬格納  
洞窟

西宮北方山地二三万坪 神戸ニ対スル  
補給 西宮港利用

生駒山腹ノ西方ニ洞窟ヲ掘ルヲ可トス  
燃料 弾薬 五千立方ノ揚陸予定

浜寺公園 助松海岸 三万坪 (一カ月  
坪二銭)

船舶部隊ノ見地ヨリ泉大津ハ不可 荷  
役人夫 曳船 舢 天候

○航空ハ一カ月ニ八百屯 八百屯——  
〇〇〇屯 爆弾

高槻ノ北ニ二万坪 舢取り 汽車又ハ  
川舢

航空用爆弾 大砲弾ハ大阪ニ置カス  
危険ノ予防 一部置カサルヘカラサル  
モノハ (還送) 淡路又ハ港内 (南港)

高射砲陣地 湿気

大量ハ輸送セス 中央ノ方針

将来 淡路ヘノ疎開モ輸送過程中、一  
時行フ

[大阪陸軍] 糧秣支廠ノ倉庫内容

衛 獣 [大阪陸軍獣医資材支廠?]

糧八〇ノ一六〇屯 茨三千米 等ヘノ軌  
条布設 鋼材ノ割当ナシ 需給者負担

セメント一万袋 [大阪陸軍] 兵器  
補給廠

十一月末日迄ニ一通リ実行スル日途テ進  
ンテ居ル [陸軍] 大臣 [杉山元元帥]、  
參謀総長 [梅津美治郎大將] ニ報告書提出

1、埠頭地区ノ物資ノ疎散 付近ノ揚  
陸貨物ノ置場 郊外

2、飛行場 格納庫 付属施設

3、危険品ノ貯蔵 油 カーバイト

沖繩、油 高雄 [台湾]、爆弾  
4、空襲下労働者 船員ノ逃避防止  
消火 救難 緊急作業 平素ヨリ  
物心対応処置  
5、消火 給水ノ問題 海上ヨリノ消  
防効果 高雄ノ例 舩カ溜リ海上  
交通ノ妨害  
6、偽装 マニラ 偽火災 船ニ火ヲ  
焚クト火災ト視ス 来襲直後ヤル  
煙幕 遮蔽 機帆船ヲ島影ニ置ク  
空襲後ハキレイニ頭ノ切り替ヘカ行ハ  
レルカ 事前ハ度々障碍ヲ進シアラ  
サルカ 空襲前、待ツアルヲ頼ム態勢  
ヲ確立スルコト必要ナリ  
マニラ、八時——十時 台湾、沖繩  
朝カ多シ 英国ハ夜間爆撃 米国ハ  
昼間 将来ハ不明  
1、日本ニ対シテハ南方ヨリノ交通  
遮断  
2、日本本土ヲ徹底ノ叩ク  
ルーズベルト、マッカーサー、ニミッ  
ツノ布哇会谈ノ内容ト比島 [フィリ  
ピン諸島]、台湾、沖繩ノ例  
○工場ノ分散 ハンブルグノ市民一〇〇  
万ノ分散  
消防艇ノ強化（人員、燃料、ホース  
[]）  
天保山運河 [大阪市港区] ノ廃船除去  
シ、防火ヲ完全ナラシム  
待避 避難 空襲  
給水施設 神戸ハ良好、四カ所ノ水  
源地アリ 大阪ハ不良、水圧少シ  
浄水場 防火装置 偽装  
物ノ疎開 臨港地帯ノ整理 油類 大  
阪倉庫  
神戸ハ丸善貯油所ノミ

舩ノ係留場所ト疎開 油、人、火災等  
ヲ考慮シ、訓練ヲヤル（図上、現地訓  
練） 油不足

○救護 救護ノ応援ヲ計画 港湾ヲ狙ハ  
レル予想下ニ処置講シオクコト 施設  
ノ使用

機帆船ノ船員及家族

神戸ノ変電所ノ防弾

大阪ノ水上救護班 医官三名 港、木  
津川、安治川三カ班 医官、看護婦、  
警察官、警防団

淀川ノ水 一万三千名ノ防空壕 野積  
ノ所ヲ防空壕ノ二物資ヲ積ミオクコト  
マニラノ被害 突堤ノ上崖ニ六、七発  
命中

十一月八日

空襲時港湾労働者確保手段方法（主トシテ  
日傭労働者ヲ対象）

現在人員ノ確保（船舶約一〇〇名 沿岸  
約一二〇〇名）港湾地帯ノ自活独立  
積極施策 安居楽業 被害ノ有無ヲ知ラ  
シメ安心セシム

生命ノ安全 衣食住ノ保障

医療、救恤、恩典ノ施策

1、防空壕ノ掘鑿 野積所ノ防空的  
使用

2、食 港湾戦士専用食堂 外食券  
ト一般配給調節 酒

3、住 港湾局跡 軍隊休憩所 築  
港南、北国民学校 空倉庫

4、衣 蓑 布団 毛布 手拭 手  
袋 地下足袋

5、医療救護 大野病院 港築港病  
院 俘虜収容所 軍衛医官

6、現員徴用 軍夫 無給軍属案  
（勲章、陸刑 [陸軍刑法]）

7、手当金給与

8、親分子分組織 精神的奉公心昂揚  
消極施策 逃避防止 「一度離散セハ集  
結困難」

空襲アルモ労務者ヲ掌握シ、離散逃避  
ヲ警防シ、輸送能力ヲ些モ低下セシメ  
サルコト

第一次掌握

港運会社 船舶会社 補給廠 [大  
阪陸軍兵器補給廠? 同航空補給廠?]

右ノ監督 軍需輸送統制部

現場ノ掌握

逃避者防止ノ警戒線 (憲兵ハ三〇名  
初期ニ使用可能)

第一線 海軍兵站

三突 [第三突堤] 歩哨

(憲兵 [D])

福崎橋

(港築署 [D])

日和橋

( " [D])

一、二突 [第一、第二突堤]

(憲兵、水上 [署])

中央突堤

(水上 [署]、憲兵 [D])

日満倉庫

(憲兵、此花 [署])

鶴浜渡

(水上 [署] [D])

日立造船港築造船所

(水上 [署]、大正 [署])

第二線

千舟橋

(港築 [署])

税関前、三条四、雲東停留所

( " )

天保山渡

(水上署)

天保橋

(憲兵)

桜島

(此花 [署])

三〇〇ノ労務者逃避ノ抑制容易ナ

レ共、一〇名ノ労務者募集極メテ

至難

労務予備隊

俘虜 華工 勤労報国応援隊 (市岡、  
大正、九條、此花 等)

日の出隊三〇〇 突撃隊一〇〇——二  
〇〇

労務供給所ノ利用 中谷 間口組

張紙ニ依ル募集

将校以下 名、只今ヨリ特命セラレタル防  
訓ヲ実施シマス

只今ヨリ実施スル訓練

課目ハ

暴徒鎮圧訓練、航空射撃訓練ノ二課目  
ヲ実施スル

訓練ノ価値ニ就テ兩課目共、現在、築  
港憲兵分隊ニ於テハ特ニ訓練

実施ノ要領

一項目共ニ教育シツツ、復練ヲ行フ

指揮官カ呼笛ヲ吹イタラ、一時訓練ヲ中  
止シ、指示ニ従ヘ

想定ヲ与ヘル

1、守衛ト乱斗中

2、写真撮影

首魁ノ正面ニ指揮官

解散予定方面ヲ明ケテ壓迫スルコト

不穩ノ兆ヲ予察

憲司〔憲兵司令部〕ヨリノ対空射撃書類

射撃教範

軍紀風紀

十二月四日

勤務割出

特高関係ノ活動

補助憲兵ノ使用

防空壕ノ整備

作戦室ノ整備

食堂 片家〔憲兵准尉〕 川端〔憲兵准尉〕

土井〔憲兵准尉〕 久下〔憲兵曹長〕

金崎 大野 納谷 笹内

豚 アヒル

十二月十九日

桜島〔憲兵〕派遣所

八木〔憲兵〕軍曹 ホー〔補助憲兵一名?〕

石橋 報告、指揮、連絡（井田隊）、

調査（兵補〔大阪陸軍兵器補給廠〕、

三井油）

真嶋〔憲兵〕伍長 ホ二 住友金属 ブ

ル〔住友ブル〕 製鋼 伸鋼

山本〔憲兵〕伍長 ホ一 日立造船

補憲〔補助憲兵〕五 1

2

3

4 田島 此花署

5 防空部隊

十二月二十一日

輸送会議ノ要旨

1、比島向ヲ急ク 十二月二十五日 計画表

2、優秀船ノ回転率ヲ増シ、油ノ確保

3、機帆船ハ武装ヲ要ス

4、港湾防衛再視察

十二月二十七日大阪 十二月二十

八日神戸 二十六日来阪

特命者 〔船舶司令部付〕

北沢〔貞治郎〕中將

随員 参本〔参謀本部〕五山中

佐 陸交通課長解良大佐

衣糧課前田少佐 建築課

伊藤少佐、島田少佐

大阪ノ視察計画

九、〇〇——一〇、三〇 所属

長ノ状況報告

一〇、三〇——一五、〇〇 現

地視察

一五、〇〇——指示 所見

戦地補給ノ必要量ノミ残存シ、内地

地補給、貯蔵用ハ疎散又計画外ノ

有無

5、陸上勤務隊 大陸——内地トノ輸送  
円滑

今月下旬内地兵一〇〇、朝鮮人一

二五 一隊

平素訓練 輸送 警備

警備召集四六九名 築港北国民学校

尚、海陸輸送隊一四〇〇名ノ計画

大阪、福山

6、築港北国民学校ヲ船員寮ニ充用

7、〔大阪陸軍〕糧秣〔支〕廠、〔大阪陸

軍〕需品〔支〕廠ノ疎開 八尾高

〔等〕女〔学校〕ヲ物色セルニ〔大

阪〕府庁ノ移転計画

8、大阪輸統〔大阪軍事輸送統制部〕ノ  
無線活用

9、神戸ニ〔大阪軍事輸送〕統制部ノ出  
張所ヲ近ク開設

10、裏日本（敦賀、伏木、新潟）輸統ノ  
新設近シ

十二月二十二日

現下、〔憲兵〕分隊長トシテ部外機関ニ対

シ打ツ手如何

- 1、工場幹部ニ空襲教訓講話
- 2、工場連絡員訓練
- 3、防空壕増築指導

既ニ打ツ手 当 [築港憲兵] 分隊トシテ

- 1、大阪港湾防衛連絡会議
- 2、軍重要物資疎開ニ伴フ防諜措置
- 3、特定重要目標責任者ト懇談
- 4、港湾労働者逃避防止対策研究
- 5、各警察署ト密接連絡週間

[憲兵] 派遣所 [警察官] 派出所

[警察] 署長 [憲兵] 分隊長 主任者相互

- 一、灯火管制ノ指導
- 二、検視検証 簡単ニヤル
- 三、警察トノ連絡
- 四、電車ノ送電処置 切断シタ場合、送電停止

十二月二十四日

警備会報要点示達

大東亜戦争ニ対スル将来ノ情勢判断

服務日報統計所見

城戸、山田ニ書翰発信

十二月三十日

[大阪憲兵隊憲兵] 分隊長会議

停滞シタ悪ヲ芟除シタ氣持ノ懲罰

表彰状モ昨年ノ倍数

一寸モ止マラナイ 動イテ居ル新陳代謝

上下ノ精神的距離ノ短縮シタモノト思フ

[昭和] 十九年度ハ [大阪憲兵] 隊長ノ

型ニハメタ

二十年度ハ各 [憲兵分] 隊ノ特徴ヲ遺憾

ナク發揮シテ貫ヒ度イ

分隊ト [大阪憲兵隊] 本部トノ關係ハ可

ナルモ、分隊ト分隊長、[憲兵] 分駐所

トノ密接ニ尚向上ノ余地アリ。具体的事

例ナシ

分隊長ノ外部活動頻繁トナルヲ以テ、補佐官ノ教育ニカヲ注ク

[一九四五年]

一月十日

(一) 年末年始ノ戦意士氣状況

航空機艦船工場六——一三%低下

十割割 酒五合 戦帽 下駄

休暇不許可

港湾荷役 不荷復船 処遇改善

鮮人 二十二名 花柳街三

割減 鮮人 酒酔ナシ 「遊

郭ノ必要性」

(二) 大阪警備府勤務タリシ海軍中尉ノ収

賄事件

歩合金 機密費名儀 監理工場タ

リ得レハ五万円贈呈 封筒

(三) 補憲 [補助憲兵] ノ交代

隊長指示 心ニ淋シミヲ感スナ

1、兵ノ自傷事件 堺

2、バルガス長官ノ見学 武長 [武官長?] 梅田

大毎 [毎日新聞]

3、昨日、和歌山ニ投弾一〇個 東和歌山

死一 重傷二 軽 [傷] 九 和カ山

4、串本ニ敵側ノ謀略放送聞ユ 発信ハワ

イ 明日ノ放送ヲ予告

隣組回覧板ハ迷ハサレナト注意

5、航本監督官ノ収賄事件 独身ノ軍監督

官ノ行動 尼崎

6、園田村ノ空襲 一発投弾 四七五件

誇大ニ通信

7、半島人ノ海軍志願状況 集団移入鮮人

8、軍用自動車ニヨル闇取引

一月二十五日

曹長以上会報

- 1、幹部ノ宿直 将校宅直 准士官、  
曹長故〔古〕参
- 2、機敏性 陣頭指揮
- 3、配当物資ノ処分 秘匿 取得量 取扱 自肅心
- 4、書類ノ取扱 回覧 伍長、軍曹級  
係以外ノ者
- 5、下僚ノ指導 准士官及担任者
- 6、被害状況報告 判明時間ノ記入  
要図ノ要点ト落下弾トノ距離

- 1、鮮人ノ現状 長野〔憲兵曹長〕
- 2、警察署トノ連絡
- 3、工場巡察 平島〔憲兵曹長〕
- 4、防諜月報資料

態勢 戒厳ノ一部〔行政戒厳施行想定〕  
予想事態

- 1、食料逼迫ニ伴フ略奪暴動化
- 2、半島人対内地人トノ争斗暴動
- 3、反官行動
- 4、半島独立運動ノ策動
- 5、反戦反軍和平策動 共産分子右翼  
策動
- 6、軍隊ノ一部不穩行動
- 7、民心不安ニ伴フ略奪強姦其他悪質  
犯罪
- 8、過激分子ノ策動
- 9、敵側謀略ノ惹起予防

二月一日

曹長以上会報

警備会報要点指示、岡本参謀ノ講話要旨  
示達  
防衛準備 自転車 提灯 電話 教育  
(幹部 兵器)

憲兵司令官〔大城戸三治中将〕ノ訓示ノ  
具現対策ノ徹底 服務意欲ノ昂揚  
休暇

〔憲兵司令部?〕高級課員

諸上司ノ意図ニ基ク〔憲兵〕分隊長ノ  
指導要領 特ニ末端浸透ノ状況 速度

1、大阪ノ環境ニ応シ、特ニ留意シ  
アル事項

2、将校ノ自覚並将校ノ下士官兵ノ  
掌握

3、任務ニ応スル内務指導上ノ着眼  
戦時服務ノ要領

憲司〔憲兵司令部〕ノ指令ノ処理  
之ニ基ク〔憲兵〕分隊以下ノ指示、  
実行

一、軍秩維持協力(黒崎少佐)

司令官ノ達、具現ノ為、着意シ  
アル事項

部隊長トノ連絡

予防警察ノ為ノ具体的手段

管内部隊ニ対スル協力要領

1、熱意ト心構

2、軍隊側ノ態度

3、部隊所在地及特性ニ応スル  
予防警察

二月二十二日

1、軍秩維持協力服務 中部七六五一部隊  
松井隊(松井大尉)

昨九、一〇名(協和会)

2、未稼働並穩退蔵物資調査

3、春工作

4、警備上、時務ニ先ツル対策

(1)防空部隊トノ間ニ電受信機ノ設置

(2)空襲時重要 航空機 災害時憲  
兵ノ伝單

(3)夜間災害現場ニ憲兵急行要領 落

下傘 被弾地

(4)非常用食糧ノ一端トシテノ豚ノ飼育

(5)補憲〔補助憲兵〕

5、畠山中佐ノ捜査概要

三月八日

〔築港憲兵〕分隊幹部会報

- 1、兵器検査ノ準備
- 2、自転車五台増加 大切ニ乗用
- 3、出張申請 五〇〇円
- 4、炊事 五六〇珎 他人ニ給食スナ
- 5、軍秩協力服務 会ヲ開ク
- 6、雛十羽
- 7、鉄鋼回収策
- 8、補憲〔補助憲兵〕ノ質悪シ 指導上注意

三月十日

指揮班  
派遣憲兵  
特高班  
罹災者救護班  
威力巡察班  
給与班

三月十一日

神戸応援者ノ原隊復帰 二十名  
兵力部署ノ補充  
交通整理 罹災者相談 野田阪神

三月十二日

東京空襲被害ニ関スル戦訓

- 1 〇/百 〇〇一五[一]〇四三〇  
百三、四十機 焼爆〔焼夷爆撃〕  
三十五万戸 三万人死 一〇〇万罹災者
- 1、疎開ノ完結 憲兵ノ家族 〔築港  
憲兵〕分隊ノ重要物件 各人ノ所有物
- 2、防空壕ノ強化  
四條通〔憲兵〕詰所 大三箇構築  
出崎町 大一

(荷物用、人員用)

- 3、補憲〔補助憲兵〕ノ配置 出崎五  
名〔警報中〕 四條四名〔平時二名  
[]〕
- 4、管内事情ノ精通 道路 大災害時  
避難スヘキ所 川、公園、地下道
- 5、煙ニ巻マレタ時 風上ニ出ル 濡  
レ外套、手套、タオル、マスク、防  
毒面、眼鏡
- 6、各人ハ居所ヲ明ニシ、所定ノ住所  
指揮下ニ入ル 死所ヲ得ルコト嗜  
〔たしなみ〕 所不〔所在不明〕ト  
ナルナ
- 7、現場派遣憲兵ノ指揮官 波状来襲  
ト待避 警備勤務ノ指揮
- 8、〔築港憲兵〕分隊庁舎ノ移転先  
四條詰所分隊長官舎 物色
- 9、炊事ノ重要物件ノ増設施設  
前ノ道路 金崎
- 10、自動車其他車輛類置場 〔大阪陸  
軍〕糧秣支廠構内 高橋 交渉
- 11、電線ニ感電シタリ、瓦斯中毒ニ罹ルナ
- 12、補憲ノ訓練 橋、奥村、藤沢  
場所、施設、機材、警備活動
- 13、詰所ノ各人ノ荷物ハ施錠ノ上、一室  
ニ取纏メ、監督者ヲ付ス
- 14、家族等来阪ノ節ハ市外ニ宿泊セシメ、  
居所ヲ報告

三月十三日

二十三時 警戒警報  
二十三時五分 空襲警報

三月十七日

長野〔憲兵曹長〕 川岸〔憲兵軍曹〕  
○鮮人罹災者 四〇七九名 港、此花、大正、  
福島、西<sup>2</sup><sub>0</sub>  
九八〇疎開(縁故) 八〇〇朝



鮮其他他府県 残留七〇〇名  
 縁故者ナキ者一〇〇〇名 受救護者一九  
 〇〇名（学校、寺院） 収容所ヲ転ス  
 流言ナシ 財産少キ為動揺少シ 危険少  
 キ 舞鶴、裏日本ニ移り度シ 帰鮮８０％  
 中山製鋼其他出勤率６０％ 荷車挽 焼  
 跡ノブリキ鉄、回収  
 先本鉄工１５０ 翌日７０％ 十六、十  
 七〔日〕 ７５％ 生産平常  
 「言動」 大阪ノ戦果悪シ 乳児ノ泣キ  
 顔ヲ見ルト戦争ハ嫌ニナル  
 戦争ニ勝ツ □貰 日本人ハ  
 物欲ニ駆ラレ死者カ多イ 衣  
 料切符不要１５０点  
 大阪造船ノ工員二 帰鮮申出阻止  
 集団鮮人ハ平靜  
 ○一般罹災者 志気旺盛 目下、一般疎開ヲ  
 禁未止中 防空壕 地図〔？〕  
 野村銀行（小林町）３００名 六万円  
 （二〇〇円以上一〇〇〇円以下国債貯金）  
 半数出勤 二十日以後ハ１００％ナラ  
 シム如ク指示 疎開完了  
 言動 撃墜数少シ 戦争ハ勝チアリヤ  
 負ケアリヤ  
 ○俘虜 収容所ノ移転ヲ希望 盲爆ハ人道上  
 ノ常 英国人、日本ノ対空砲火ヲ賞揚  
 十六日一六〇名 十七日五六〇名 収容  
 所長ニ連絡  
 港湾労務者四〇〇、沿岸一八〇〇 半数  
 幹部ノ罹災ノ為  
 三月十八日  
 住友ブル ６１％出勤率 女子９４％  
 機械七割  
 伸鋼所 罹災者一三〇〇 慰問品若  
 干 現金一〇〇  
 １３〔日？〕 被害者

１４〔同右〕 ２３４００  
 １５〔同右〕 １７  
 １６〔同右〕 １６００１０  
 １７〔同右〕 １０８７０８  
 １８〔同右〕 １０３０００

神戸 野間 奈良 岡市 和か山 尼崎  
 大津 佐野

三月十四日空襲被害時

長野〔憲兵〕曹長 １５／３〔三月十五  
 日、以下同〕夜 磯路国民学校 五  
 九〇〇 妊産婦老幼病者ノ區別 ロー  
 ソク二十箇ヲ頒チ与フ

川岸〔憲兵〕軍曹 １４／３ 泉屋国民  
 学校 鶴町 南恩加島

中西〔憲兵〕伍長 １４／３ 港磯路町  
 猛煙ニ取巻カレアル罹災民約五十名  
 （二町会）ヲ活路ニツカシム 風上  
 ニ誘導

河合〔憲兵〕軍曹 罹災者ニ  
 懇切丁寧ニ取扱フ如ク指示、野村銀  
 行外二社 罹災者ニ慰ノ言葉 自転  
 車ニ荷物ヲ載セ、老人ヲ助ク

岸本〔憲兵〕軍曹 １５／３ 市岡大劇  
 場、市岡中学六〇〇〇名 デマヲ信  
 スナ 同情 本田通基督教会罹災支  
 那人ニ煙草ヲ十箇頒チ、手ヲ握ルモ  
 ノ、抱キツキ喜フモノアリタリ

久下〔憲兵〕曹長 １７／３ 全焼セル  
 九條警察署特高係ニ煙草五箇ヲ見舞  
 平島〔憲兵〕曹長 １４／３ 隣組布団  
 ヲ供与 日立造船桜島工場海防艦ヲ  
 警防

真嶋〔憲兵〕伍長 １４／３ 天保山渡  
 船場 罹災者百五、六十名

横井〔憲兵〕伍長 16/3 交通整理  
中、妊婦三名ヲ自動貨車ニヨリテ上  
六駅ニ送ル

平田 13/3 九條新町  
警察署焼失シ、罹災民ノ処遇不充分  
ナル時、收容所、食糧分配等実施シ、  
区長ヨリ感謝セラル 区役所ニ配布  
四千枚ノ毛布ヲ直チニ分配

三月十八日

兵力部署

一九五名

憲兵 築港〔憲兵分隊〕五五名  
姫路〔憲兵隊〕二五名

補憲〔補助憲兵〕 第一次四〇名  
第二次二五名、五〇名

派遣憲兵 三五名 三突〔第三突堤〕

桜島 鶴町 野田阪神 川口 各七名  
交通係 十五名 野田阪神 川口

境川 夕風橋 大正橋 岡崎 小林  
町 三軒屋 春日出 肥後橋 天保山  
罹災者救護指導 四五名 五人九組

民心動向觀察 十五名 航空機 船舶  
工場 港湾労働者 俘虜 外人中国  
人 思想 経済団体 鮮人

指揮班 九〔名〕、内勤十二〔名〕  
〔□□ 受付 伝令 炊事 諸給与〕、  
〔計〕二十一名

宿舎監視 十四名

巡察 十五名

予備（自隊警備 物資疎開 自動車 前  
記勤務者ノ休養）四〇名

三月二十七日

〔憲兵〕隊司令官〔憲兵〕隊長会同要旨伝達

憲兵司令官〔大城戸三治中将〕訓示

一、実行第一主義ニ徹底スベシ

今日ノ一日ハ昔ノ百日ニ等シ

巧緻ヲ戒メ拙速ヲ尚フ 内外  
ノ情勢ヲ判断シ、先見、洞察  
ノ明

明確ナル意図ニ基ク現地現場  
ニ即スル適切ナ任務ヲ付与シ、  
幹部率先陣頭ニ立チ、強力果  
敢、積極、部下ヲ指導スルコ  
ト肝要ナリ

二、統率団結ノ強化ト必勝信念ノ堅  
持ニ就テ

堅確ナル意思ヲ持チ、団結シ、  
各級幹部ノ統率力ヲ且ツ教ヘ  
且ツ戦フ 必勝ノ信念 戦争  
ハ双方苦シ 堅忍不拔、最後  
ノ勝利ヲ確信シ、憲兵ハ戦局  
ハ飽ク迄戦局不利ト雖モ、戦  
フ意思 国民ノ戦意ヲ昂揚シ

三、軍秩維持協力ニ就テ

軍秩維持ハ従来ノ如ク消極的  
ハ不可 積極推進ノ面ニ及ヒ  
軍ノ精強ニ寄与

四、治安防衛ノ服務ニ就テ

治安確保 厭戦反戦和平ニ関  
シ、犀利ノ觀察ヲ加ヘ、未然  
警防 積極的啓蒙指導ニ任シ、  
憲兵、在郷軍人ト協力助力、  
推進助成ニ任スヘシ

非常時憲兵ノ防衛服務

高度国防工作戦憲兵協力要  
綱ニ基キ推進、独断ハ不可

五、国家国軍ノ企図達成ニ協力スヘ  
キコト

国家国軍ノ決戦諸施策ノ実行  
ニ協力、積極的助成 研究ト  
気魄カ必要

付言

正シク強ク情アル憲兵 運輸  
交通疎外阻碍除去  
人ヲ生カシテ使フ 適材適所  
適材ヲ作ルコト  
火災、消スコト、救恤 治安  
維持 生産増強ノ如ク推移  
仕事ハ先手先手 偵諜網ハ根  
強ク 仕事ハ熱意ヲ以テ

軍秩、外事、特務、警務

軍秩維持協力ハ重要 海軍モ同様ノモ  
ノ出来タ

特務課 生産連絡班 燃料、食糧、運輸

陸軍大臣〔杉山元元帥〕ノ訓示

第一、至厳ナル軍紀ノ確立ニ就テ  
（全軍特攻トナリ）

憲兵自ラカ自肅自戒 団結  
ノ強化 全軍ノ龜鑑タレ

第二、服務ニ

重点服務徹底 時勢ヲ 戦  
場執務 軍秩維持

連鎖、楔、潤滑油、靱帯（憲兵ノ立  
場ノ形容詞）

憲兵ノ重視 拝謁迄賜ル 一兵ニ至  
ル迄徹底

軍官民ノ温キ連鎖トナルノ覚悟 治  
安維持

〔憲兵〕司令部内部〔四月一日以降〕

高級部員 総務課

警務課

外事課

特務課

企財課〔経理課〕

科学特別班

直轄分隊統轄補佐機関

特務班

機動憲兵隊

機密書類ハ全部返納

考科表ハ三月十六日付

将校ノ功績名簿提出

三月三十一日迄ハ大阪憲兵隊長ニテヨ  
シ〔四月一日以降改編〕

〔日付不詳〕

人事

内務

教育

防衛

服務

対外部関係

